

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第185号

ななえ古写真物語 VOL.185

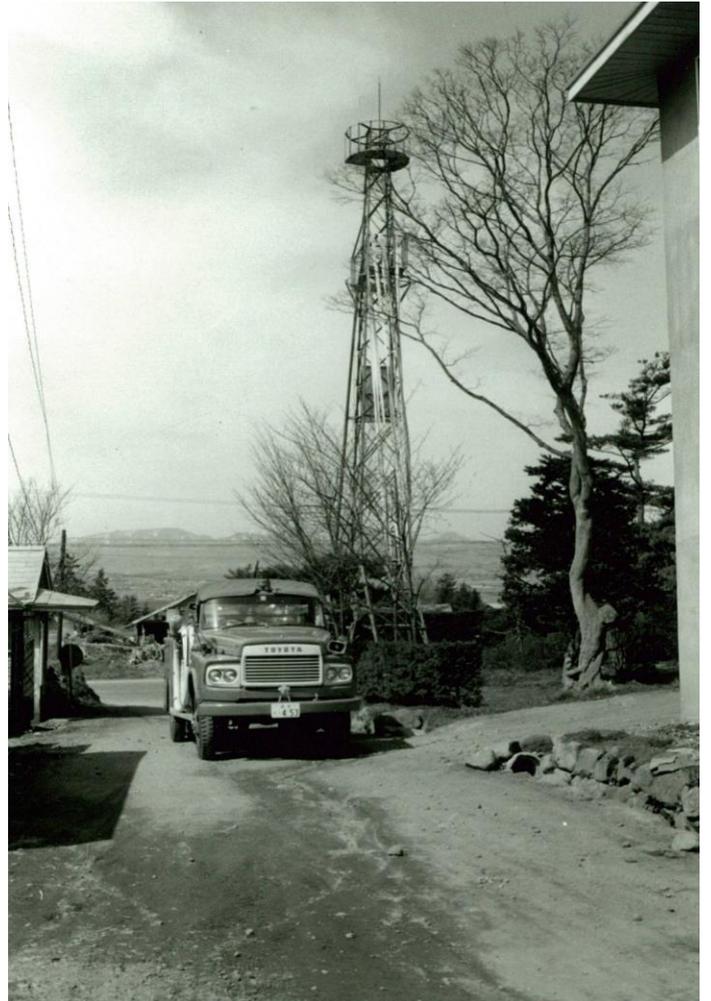
鐘楼の記憶

旧七飯町役場附属施設
昭和40年代
本町地区

やや年代もののトヨタ社製の車。側面には白いホースが巻かれた状態で取り付けられているので消防車と思われるが、重厚感のある顔つきが特徴的で時代を感じさせる。そのそばには鐘楼が聳えている。ここは現在、七飯町商工会と七飯郵便局があるあたり。今ではすっかり様相が変わってしまったが、かつては旧役場庁舎があり、防災用の鐘楼が設置されていた。

過去に発行したピチャリ第163号で、この鐘楼上から撮影したのではないかと推察した国道5号沿いの街並み写真を紹介したのだが、この鐘楼をみるかぎり、思いのほか高く、しかも足場と思われる所が、上下2箇所あったことがうかがえる。おそらく、この場所からは七飯町を360度見渡せるだけでなく、遠く函館方面や大野平野も一望できるだろう。

ところで、この鐘楼がいつまで存在していたのか、詳しい記録が手元にはないのだが、昭和60年度に現在の役場庁舎が落成していることや、翌61年度に七飯郵便局が現在地に新築移転したことを考慮すると、昭和終わりには、その姿は見られなくなったのではないかと推察するし、ピチャリ第174号で消防署の歴史について簡単に触れてはいるが、旧七飯消防署の庁舎が昭和48年に現在の桜町に新設されていることから、あるいはそのころには、この鐘楼も失われているのかもしれない。いずれにせよ、こういった建造物は街なかから徐々に姿を消してしまっている気がする。時代の流れとはいえ寂しい気もする。



ちなみに、ここに写っている舗装されていない道は、いまもその名残がみられ、郵便局を訪れる人たちが往来している。この写真には写っていないが、道の左側には、七飯町商工会の建物が健在している。だいぶ時代のついた佇まいになってはいるが、かえって趣きを感じさせるものとなっている。少なくとも昭和50年代には、この場所にあったと思われるが、それについても詳しく調べる必要があるだろう。鐘楼を記憶している人が少なくなってきたのは、時代の流れなので仕方のないことなのだが、文字記録として、少し前の歴史を残すのも当館の仕事である。まだまだ、力不足であることは否めない。そんなことを反省させてくれた一枚の紹介でした。

29日 今年度のジュニア探検クラブがはじまりました。

今年度は9人で行うジュニア探検クラブ。職員が練りに練ったプログラムに参加してくれるのは、どんな子どもたちだろうと、こちらも心待ちにしていました。午前には自己紹介で好きなものや苦手なものを聞き、名札作りもしました。午後は館内の見学を。常設展示室や学習室、普段は入れないバックヤードの見学は、1階の迫力ある猛禽類の剥製や大型の農具、2階は民具を中心に子どもたちに自由に見学してもらいました。楽しい時間になったかな？



ロビー展をリニューアルしました

動物の「骨」を展示しています。頭骨や骨格標本を剥製と対比してご覧頂けます。「骨」の展示？と聞いてゾツとしてしまう人もいるかも知れませんが、意外に近くで見ると「骨」って美しいのです。エゾリスやタヌキ、イタチなどの身近な動物も「衣」を脱ぐと、デザインされたかのような規則的な骨格が現れます。ちょっと怖いかも知れないけど、是非ご覧下さい。関連図書も置いてありますので、興味を広げたい方はお読み下さい。



旅をした場所、旅をしたい場所。

5月15日で終了した企画展では、旅をしたことのある場所とこれから旅をしたい場所をボードにピンを差してもらおうという参加型展示を試みました。旅をした都道府県と旅をしたい都道府県の両方の1位は北海道。旅をした都道府県2位は青森県、3位は東京都。一方旅をしたい都道府県2位は沖縄県、3位は新潟県でした。どちらも2位と大差をつけて北海道は断トツ。長く住んでいても隅々まで足を運ぶのは難しい北海道の広さを実感しました。



1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水 夜の博物館第1夜
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火 ピチャリ第186号発行
21	水
22	木
23	金
24	土 ジュニア探検クラブ
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木
30	金

※6月の休館日はありません

ボケ(木瓜)

野草園で花咲くボケ。深い紅色が窓からも目に飛び込んくる存在感がある木。中国から日本に伝わったのは、平安時代。果実酒にもなる実は秋になります。



編集後記 ~tawagoto~

選書に携わる仕事を長くしていると、思考が偏りがちになるので、周りから貰う意見が有難い。読書離れが久しい状況に光をと、児童書の選書は特に悩む。小学生の頃は図書室の伝記を端から順に読んで、単純にすごい人たちが世の中にはいるんだ、と感心した。今月は女性の伝記を選書するにあたり、候補になる人物を多く挙げて頂いた。科学者、政治家、国王等々。個人の一生を詳しく知ること、輪郭がくっきりとするのも伝記の醍醐味だと思う。

Pichari ~ピチャリ~

第185号

令和5年5月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp